

法律科目試験 「民事法系」 問題

民事法系 1 (配点 160 点)

I 次の用語を、その違いが分かるように、それぞれ 300 字以内で簡潔に説明しなさい。

- (1) 営利法人と非営利法人
- (2) 任意認知と強制認知

II 次の事例を読んで、後の(1)から(3)の問いに答えなさい。

〔事実〕

1. 2017年8月、A(55歳)には、妻B(50歳)、Bとの間の長男C(25歳)、長女D(23歳)がおり、CとDは、いずれも、大学を卒業後、就職し、それぞれ独立して生活していた。CとDは独身であり、子はいない。
2. 同年8月当時、Aは、甲建物(時価500万円)、その敷地である乙土地(時価1000万円)を所有していた。
3. Cは、ギャンブルが趣味で、競馬、競輪、競艇と遊び歩いており、同年8月頃には、サラリーマン金融から500万円余の借金があった。
4. 同年8月27日、Cは、Aの委任状を偽造し、Aの代理人Cとして、甲と乙を売却する契約をEとの間で締結した。偽造されたAの委任状と売買契約書には、Aの実印が押されていたが、これは、同年のお盆にCがA宅に帰省した際に、Aの隙を見て押したものであり、また、Aの住基カードを一時的に持ち出し、近くのコンビニエンスストアで印鑑証明書を手に入っていた。住基カードの暗証番号は、以前、CがAのキャッシュカードの暗証番号を聞いたことがあり、同じものを入力したところ、一致していた。
5. Aは過去にCに対し代理権を与えたことはなく、代理権を与えた旨の表示をしたこともなかった。
6. Eは、Aの古い知り合いであり、Aのことをよく知っていた。Eは、〔事実〕4の売買契約を締結する際、Aのものとされる委任状を見てAの署名がAの字でなく、おかしいとは思ったが、CがAの長男であることもよく知っており、また実印の印影と印鑑証明がそろっているので、大丈夫だと思い、Aに確認することなく契約することにした。

〔問題〕 〔事実〕1から6を前提として次の問(1)に答えなさい。現在は、2017年10月である。

問(1) Eは、Aから甲と乙を購入したとして、Aに対し、甲と乙の所有権登記についてEへの移転登記手続を請求した。これに対し、Aは、請求を拒絶するとともに追認を拒絶した。Eの請求は認められるか。

〔事実〕

7. 同年9月15日、BとCの乗車していた自動車が交通事故を起こし、BとCが死亡した。BとCの死亡の先後関係は不明である。BとCの遺言はない。

〔問題〕 〔事実〕1から7を前提として次の問(2)に答えなさい。現在は、2017年10月である。

問(2) Eは、Cが死亡したことによりCの履行債務をAが相続したとして、Aに対し、甲と乙の所有権登記についてEへの移転登記手続を請求した。Aは、請求を拒絶するとともに追認を拒絶した。Eの請求は認められるか。

〔事実〕

8. 同年9月15日、Aの乗車していた自動車が交通事故を起こし、Aが死亡した。それまでにAは、〔事実〕4の売買契約について、追認も追認拒絶もしていなかった。Aの遺言はない。

9. 同年9月30日、Bは、Eに対し、追認を拒絶する意思表示をした。

〔問題〕 〔事実〕1から6、8、9を前提として次の問(3)に答えなさい。現在は、2017年10月である。

問(3) Eは、Aが死亡したことにより甲と乙の共有持分をCが相続したとして、Cに対し、Cが相続した甲と乙の共有持分についてEへの移転登記手続を請求した。Eの請求は認められるか。

民事法系 2 (配点 80 点)

Ⅲ 次の事項について、それぞれ 200 字以内で説明しなさい。

- (1) 匿名組合と合資会社の異同
- (2) 為替手形の資金関係

Ⅳ 次の事例を読んで、後の(1)、(2)の問いに答えなさい。

Y社は同族会社で、取締役会設置会社である。同社の株主は当初A、D、E、F、G、Hであった。Aは、その後自分の持株全部を妻であるBと子のCに譲渡していたが、現在まで、それ以外の株主の変動はない。同社の株主総会は必要な場合にのみ開催され、毎年開催されていたわけではなかった。同社の取締役はA、D、E、Gで、A、Gが代表取締役であったところ、Aが死亡し、その葬儀が行われた際に、B、C、D、E、F、G、Hが集まった。Bが、折角の機会なので、ここでCを、Aの後任の取締役として選任するための株主総会を開催してはどうかと提案した。Dは、葬儀の場でそのような話をするのは不謹慎であるとして、反対し、その場から席を立った。他の者は賛成したので、他の者で株主総会を開催することとなり、Cが取締役に選任された。その後、引き続きC、E、Gにより取締役会が開催され、Cを代表取締役に選定した。

問(1) Dはこの選任決議の効力を争うつもりである。どのような主張をするか。

問(2) Dの主張が認められた場合に、Cが甲社の代表取締役として甲社を代表して行った取引の効力はどうなるか。